



笑顔いっぱい かがやく入谷っ子

子供たちの幸せのために

子供たちにとって、必要な力は、何か。小学生である子供たちは、いずれは社会に出ていくこととなりますが、子供たちが出る社会は、変化の激しい社会であり、課題について他者と協働して、よりよい解を導き出していくことが求められると言われていません。

子供たちにとって、大切なことは、自分で考えること、考えたことを他者と交流して、考えを広げたり深めたりする中で、新たな見方や考え方を見出していくことであると考えています。そのためには、自分の思いを表現する力が必要であるし、自分の思いを表現するための温かな人間関係が構築できるように、お互いを大切にすることを育てていく事も必要になります。

「聴す」は「ゆるす」と読むということを研修会で学んだことは、以前の校長通信でもお知らせしたことと思います。その際、講師の先生から、何と読むか自由に発言するよう求められました。私は正解が分からず、間違いたくないという思いから発言できない状況でしたが、講師の先生から、それは、正解を答えなければいけないという教育の結果だと指摘を受け、どきりとなりました。子供たちに「考える力を」と言いながらも、実は子供たちに、大人が求める正解を探すようにさせていないか、一度立ち止まって考える必要があると改めて考えさせられました。

親が正解を持っていると子どもが語る言葉を最後まで聞けません。途中で自分の正解

を言ってしまいます。十年後の社会は正解なんてどこにもありません。子どもが自分で考えて、自分で判断して、自分で行動して、自分で責任を取る。失敗したら誰のせいにもしないで自分のためにやり直しをする。こんな力が必要なのです。

(「ふつうの子」なんて、どこにもいない
木村泰子)

金曜日に腹痛を訴えてきた子がいました。授業前半、保健室で休んでいましたが、少し痛みが和らいできたので、教室に戻って学習してもいいし、残りの時間を保健室で休んでもいいという話をしたところ、少し考えた上で、教室に戻ることを選び行動していました。その後は元気に過ごせていたので一安心でしたが、小さなこと一つ一つが選択であり、自己決定させていくことを意識して行っていきたいと考えています。もちろん、大人としての意見やアドバイスは大切なことであるし、多くの人からの多様な考えを聴くことは必要であると思っています。ただ、伝え方に配慮していきたいと思っています。教員になったばかりの時に、「あなたは」を主語にするのではなく、「私は」という言葉を主語にして話すことが大切であると学びました。メッセージを伝えるのに、Youメッセージだと批判や責めになるけれど、Iメッセージで話すと、自分の考えを伝えることができるし、相手の動きまで縛ることはないのです。主体性を引き出せるのだと教えていただきました。子供たちの幸せのために、日々意識してよりよい関わりができるようになっていきたいと思っています。